

が皆相互に對等の地位に立つに至るとき、初めてソリダリテが眞の意義をなして来る。されば現代に於ては、無産階級間にソリダリテの精神を植着附けることは正しい。然し一般的に説くことは甚だ危険である。絞取する者と絞取される者との間に、ソリダリテの成り立ちやう道理がない。強ひて成り立せよとするのは、絞取される者を永久に奴隷状態におかしめることになる。即ち主人と奴隷との間に相互的利益と相互的責任のあるが如く説くことは、全く欺瞞的手段であつて、ソリダリテの觀念を全く悪用するものに外ならない。

政治のことについては徹底的に論述する自由を吾々は有してゐないのであるが、兎に角官僚政治は勿論のこと、デモクラシの議會政治にも、また謂はゆる哲人の善政にも、吾々には十分信頼することの出来ないもの、あるやうに思はれる。吾々は政黨なるものを非常に嫌惡せざるを得ない。今吾々は一政黨の專制をあからさまに見せつけられてゐる。然しこれは政黨に對する幻滅として甚だよいことである。將來とても吾々は如何なる政黨にも信頼しないがよい。吾々は政治からはなる可く遠ざかるがよいのである。吾々は政黨の略奪が如何に多くの殘虐を持ち來すものであるかを知つてゐる。政治は野心家やデマゴグ（煽動政治家）の乘する機關となる。民衆の解放運動に於ては、斯かる野心家や煽動家を警戒しなくてはならない。

甚だしき貧富の懸隔が、現代の社會に存することは、何人も感服してゐるといふのである。貧乏の悪いことは言ふ迄もない。然しそれが單なる貧乏であるのならば、なほ我慢しても通して行くことが出来ぬでもない。實に貧乏であることは、奴隷であることを示してゐるものに外ならない。コールの言ふやうに、「貧乏は症候で、奴隷制度が疾病」なのである。即ち奴隷制度の存することが、現代社會の根本的缺陷である。吾々は何よりも第一にこの奴隷制度を廢止しなくてはならない。

現代に於ける大部分の筋肉労働者及び頭腦労働者は、決して獨立した生産者ではない。彼等は賃銀奴隷であり、俸給奴隷である。彼等は自分自身の仕事を持つてゐない。彼等は資本家から與へられた仕事を、單なる賃銀の爲めに、單なる俸給の爲めにしてゐるのである。彼等は決して眞の自由を有してゐない。彼等はその與へられたる地位や仕事から、資本家の心次第で、いつ投げ出されるか知れないのである。何事も彼等の意のままにはならない。彼等は意志の自由をも奪はれてゐるのである。彼等は常に資本家の鼻息を窺つてゐなくてはならない。何といふ哀れなことであらう。然しそれより外にどうすることも出来ないのである。

然るに資本家達は、自ら指一つ動かさずして、莫大の利潤が彼等の懐へ舞ひ込んで來るのである。そして彼等が主人として、全ての權力を握つてゐるのである。彼等は産業を彼等の意のままにし、